

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394900035		
法人名	有限会社 愛和		
事業所名	グループホーム サンライフハートネス		
所在地	愛知県日進市米野木町追鳥		
自己評価作成日	令和5年1月24日	評価結果市町村受理日	令和5年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyousoCd=2394900035-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知症の人が家庭的な雰囲気の中で穏やかに暮らしていける環境づくり・幅広い認知症の方をうけいれることができる
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、利用者の残存機能の維持・向上を目指し、利用者が住み慣れた地域で穏やかに暮らせるように支援している。コロナ禍ではあるが、感染状況を把握し、感染予防策を講じた上で、家族の協力を得ながら外出を支援している。また、ボランティアを受け入れるなど、利用者が閉塞感を抱かずに暮らせるように取り組んでいる。 利用者の生活を支える上で職員の適切な対応が必要であり、それを担保するための研修や勉強会が実施されている。毎月開催される会議の中で、職員が進行を任される研修が行われており、進行役を任された職員はテーマに対し、より深く理解できる取組みとなっている。 ホームの雰囲気は穏やかであり、職員が働きやすい職場であることがうかがわれ、一度退職した職員が再度入職する例もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念と職員心得を各フロアに掲示しており職員も共有している	ホーム理念は各フロアーに掲示されており、職員は日常的に目にする機会を持っている。入社時には理念について説明し、理解を促している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の新聞社職員や通勤中の地域中学生、小学生など挨拶を交わしたりして交流している。地域おまつりなどでも地域の人たちと交流している	地域の行事はコロナ禍で中止されることが多く、交流機会を持つことが難しい状況である。しかし、通学中の小中学生と挨拶を交わしたり、職場体験を受け入れるなど、交流を途切れさせないための取組みがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時折地域の方が介護保険について聞きに来たり、見学しに来ることもある。そういう時は包括や居宅支援事業所につなげることもある			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一回開催しており、日常の変化や評価の取り組み状況などについて話あっている	コロナ下ではあるが、基本的に対面での運営推進会議を目指しており、書面での開催は1回のみとなっている。ホームの取組みや利用者の状況の報告、意見交換・情報交換の場として活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日頃、市役所からメールや電話で色々教えて頂くことが多く、利用者の報告や利用状況についても話すことが多くある	行政担当課とは、メールや電話で話すことが多いが、訪問することもある。ホームの運営状況や行政からの報告など、相互の情報交換は円滑に行われており、ホーム運営に支障はない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に拘束は行わず、毎月の会議では、虐待防止や身体拘束について話しあっている。防犯上の理由から夜間は玄関の施錠は行っている。	毎月1回行われるミーティングの後に、職員主導の勉強会が行われており、自らを振り返る機会にもなっている。職員の身体拘束に関しての理解は深まっており、拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のフロア会議にて虐待防止委員会を開催し事例などをもちいて話し合う時間を設けている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	見受け引き取り人がいらっしゃる方やお金の管理が出来ない利用者の中には後見人制度を利用されている人がいる。現在も民間の後見人が付かれている人がいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結前でも疑問点や質問は受けついでおり、その都度説明している。契約時にも重要事項について説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価などによるアンケートやケアプランの説明や電話対応などで家人から意見が上がった場合にはその都度検討をしている	家族へは、利用者の日常が頻繁に報告されており、意見や要望を言いやすい環境づくりに努めている。家族から出された意見・要望は職員間で共有し、必要に応じて職員会議等で検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議などで利用者について話し合ったりして職員の意見などにより勤務時間の変更をしたこともあり職員から意見が言いやすい関係が傷けられように日ごろ意識している	職員の意見や要望・提案を聞く機会としては、フロア会議や年に1回の面談がある。管理者と職員は日常的に話が出来る環境にあり、意見や提案等は検討され、運営に反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が勤務状況や普段の様子を把握するために施設に來たり、管理者と意見交換したりしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修とは別に資格取得の外部研修やセミナーなどに行かせるものもいる。但し全員ではなく勤務態度や出勤状態を勘案している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が開催するセミナーや交流会、勉強会にも参加させることがあり地域の同業者と交流する機会がある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の方は意見が言えないこともあるので傾聴するようにし意思を汲み取るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に相談受付の面談で家族の意見や要望に耳を傾けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意見や必要なサービスを勧奨し支援を行っている。時には外部ボランティアや訪問看護などを使うこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体の元気な利用者は職員と一緒にカレンダーをつくったり掃除やお皿拭きなどを職員といっしょになってしていただくこともある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時には介護は施設側だけではなく家族の協力も必要であることを伝え、お互い協力してご利用者を支えていただく必要性について話をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの顔なじみや家人と関係が継続できるようにコロナ禍においても緊急事態宣言などが解除さえたら面会を許可している。複数名で体操をしたりレクリエーションを行っている	コロナ禍で中止していた面会も再開され、家族・知人友人の訪問を受けている。電話などの通信支援も行っており、利用者や家族の要望に応えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように食事は皆で集まり食事をするようにしている。利用者の関係性などで食事の席を帰ることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前には利用していた家族の方が施設に顔を店に来てくれたり、違う親戚の方の介護について意見を聞かれたこともある。現在は面会もオーケーしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意見が言えない人には表情や態度からくみとり、その人ごとに以降の把握に努めている	利用者との日常の関わりの中で、言葉や表情・仕草から本人の思いや意向を把握するよう努めている。家族からの意向や思いも、訪問時や電話で話を聞き、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前の生活歴や既往歴の情報を病院や前のケアマネージャーなどに確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝と夕方に夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者に申し送りをしており日常の変化について職員間で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画者だけではなくフロアの職員ごとに担当する利用者を割り振り利用者に対するケアプランをチームで考えている	6ヶ月・12か月で介護計画の見直しを行い、毎月のモニタリングや担当職員の意見、様々な記録を検討し、利用者に合わせた介護計画を作成している。状態に変化があればその都度検討し、更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各スタッフごとに担当する利用者を決めているためフロアの会議では個別の利用者の注意点や変更点をフロア職員で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの意見については検討し可能な限り対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において外出レクリエーションが出来ない状態が続いていたが現在は再開しており地域資源を利用したりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を希望する方はそのまま継続することも可能で往診を希望される方は往診を利用することも可能	協力医は2院あり、利用者は選択できる。協力医以外の受診は原則家族対応となっているが、ホームで対応することも可能である。非常勤ではあるが看護職員の配置もあり、利用者の健康管理を担っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師もフロア会議に参加したり身体介助を手伝ってくれることもあり、看護職、介護職とのへだたりがないようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はケースワーカーに連絡をこまめにして長期入院にならないように声掛けを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化してきたり、入院したり、急変した場合には家族だけではなく施設側や往診医を交えてケアの方向性について話したりする機会意を設けるようにしている	利用者の重度化・終末期についての指針があり、入居時に説明されている。重度化した場合は医師・家族を含んだ話し合いが持たれ、方針を決定して支援している。緊急時の対応マニュアルもあり、職員に周知急変に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア会議などで利用者の急変時や救急車の呼び方について話し合ったりしている 職員の休憩室にも手順書を張り出している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練や通報訓練、消火訓練などを行っている。	法定の防災訓練が様々な想定の下に行われており、災害時の対応マニュアルも整備されている。広域災害に備えた研修も行われ、その対応について職員へ周知している。	長期間の停電に備えるための方法として、非常用電源の確保等の検討も必要であろう。

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の羞恥心にも配慮するようにフロア会議などで話あっている	利用者に対しての職員の対応は、尊厳や羞恥心、プライバシーに配慮し、利用者に不快な思いをさせない接し方に努めている。毎月の会議の中でも、利用者の人権について学ぶ機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外に行きたいといった要望はすぐには叶えることができないが散歩に行ったり家族に連絡したりかなえることが出来る場合には家族にも手伝っていただいたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大体のスケジュールは決まっているが利用者ごとのペースで過ごしてもらうことは可能。食事なども他の人と違った時間に食べる方もいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える時に洋服を選べる方は選んでいたたりしている。趣味でネイルアートをされたりする方や裁縫をする方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けも気にしているが、紅茶やコーヒーを選んでもいただいたりしている。外出レクリエーションやテイクアウトレクリエーションなどでは、その方ごとに好きなものを選んでいただける機会を設けている	食事を楽しめるよう、盛り付けにこだわったり、食後の飲み物を選べるようにしている。準備や片付けは、利用者も出来ることを手伝っている。季節に因んだメニューを提供し、リクエストにも可能な限り応えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事摂取量などを記入し水分などが著しく水分や栄養面が足りなくならないよう気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアをおこなう できる人は自分でおこない、入れ歯に関しては夜間はおあずかりする 一週間に一度は入れ歯殺菌剤で消毒を行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記載することで排尿の間隔があきすぎてないかや便の状態等を観察している。なるべく排泄力のある人はトイレ誘導などをする。過去にもカテーテルから自尿に戻った人もいる	利用者の排泄状況を記録してパターンを把握し、個々に適した支援を行っている。トイレでの排泄を基本とした支援に努めており、排泄用品も適切なものを選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄板に記載することによって各利用者の情報を共有して必要な方は主治医と連携をとり緩下剤を使用することもある。また水分摂取不足の方などはゼリーなど摂取しやすい形をとり便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人で入浴できる方は一人で入浴することもあるが危険性もあるため職員が声掛けと確認を行う。ある程度入浴のできる時間は決めている	週に2回の入浴を支援している。利用者の自立度に合わせて介助方法を検討し、体調や意向を考慮した上で、無理強いしない支援に努めている。羞恥心やプライバシーにも配慮して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドの位置変更や防水シーツ、夜間用の尿取りパットなどを使用して快適に眠れるように援助している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては利用者が手の届くところには保管せず一週間ごとにフロア内で補完している残りの薬には薬品庫で保管している個別に薬やサプリメントを自分で補完している人もいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる人には台拭きやお皿拭きをしていたりしている 以前はビールを飲まれていた方もいる お部屋に入るならば仏壇をもってきたりする方もいる 昔の歌謡曲を流したり工夫している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な外出の要望には応えることが出来ない場合が多いが、希望する方にはご家族様に連絡して外出や外泊などの機会を設けてもらう人もいる	コロナ下ではあるが、感染状況を見ながら、家族等の協力を得て外出を支援している。日常的にはホーム周辺の散歩程度となっているが、感染状況が好転すれば花見などの季節の行事としての外出もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前はお小遣いをもってきていただいていたが現在は廃止している 外出時に欲しいものや外食時の金額はこちらで立て替えている 毎週来るお好み焼きや焼きそばの訪問販売を買う人もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年始や季節の変わり目などに友人や家人から手紙が届くことが時折ある 家族に連絡したがる人は家族に電話している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快にならないように環境整備に配慮している 各季節ごとのカレンダーを作ったりして季節感を出している	利用者が日中に過ごす時間が多いリビングは清潔に保たれ、季節感を感じながら落ち着いて過ごせるように配慮されている。行事などの写真や作品が掲示され、利用者との話の切っ掛けとなることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の利用者との共有空間で気疲れをしてしまった方は共用部のソファでほかの方と距離をおくことができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に入るものであれば持ってきていただくことは可能で家族の遺影を持って来ている人や以前は仏壇や宗教の祭壇的な者を持って来ている人もいた	居室への家具・調度品の持ち込みは自由で、利用者の好みを優先した居室づくりに努めている。安全への配慮も欠かさず、部屋の中のレイアウトも工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内ではある程度自由に本人のペースで過ごしていただく 毎日の申し送りで利用者の変化についても話し合っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394900035		
法人名	有限会社 愛和		
事業所名	グループホーム サンライフハートネス		
所在地	愛知県日進市米野木町追鳥		
自己評価作成日	令和5年1月24日	評価結果市町村受理日	令和5年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2394900035-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知症の人が家庭的な雰囲気の中で穏やかに暮らしていける環境づくり・幅広い認知症の方をうけいれることができる
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念と職員心得を各フロアに掲示しており職員も共有している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の新聞社職員や通勤中の地域中学生、小学生など挨拶を交わしたりして交流している。地域おまつりなどでも地域の人たちと交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時折地域の方が介護保険について聞きに来たり、見学しに来ることもある。そういう時は包括や居宅支援事業所につなげることもある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一回開催しており、日常の変化や評価の取り組み状況などについて話あっている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日頃、市役所からメールや電話で色々教えて頂くことが多く、利用者の報告や利用状況についても話すことが多くある		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に拘束は行わず、毎月の会議では、虐待防止や身体拘束について話しあっている。防犯上の理由から夜間は玄関の施錠は行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のフロア会議にて虐待防止委員会を開催し事例などをもちいて話し合う時間を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	見受け引き取り人がいらっしゃる方やお金の管理が出来ない利用者の中には後見人制度を利用されている人がいる。現在も民間の後見人が付かれている人がいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結前でも疑問点や質問は受けついでおり、その都度説明している。契約時にも重要事項について説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価などによるアンケートやケアプランの説明や電話対応などで家人から意見が上がった場合にはその都度検討をしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議などで利用者について話し合ったりして職員の意見などにより勤務時間の変更をしたこともあり職員から意見が言いやすい関係が傷けれように日ごろ意識している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が勤務状況や普段の様子を把握するために施設に來たり、管理者と意見交換したりしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修とは別に資格取得の外部研修やセミナーなどに行かせるものもある。但し全員ではなく勤務態度や出勤状態を勘案している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が開催するセミナーや交流会、勉強会にも参加させることがあり地域の同業者と交流する機会がある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の方は意見が言えないこともあるので傾聴するようにし意思を汲み取るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に相談受付の面談で家族の意見や要望に耳を傾けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意見や必要なサービスを勧奨し支援を行っている。時には外部ボランティアや訪問看護などを使うこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体の元気な利用者は職員と一緒にカレンダーをつくったり掃除やお皿拭きなどを職員といっしょになってしていただくこともある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時には介護は施設側だけではなく家族の協力も必要であることを伝え、お互い協力してご利用者を支えていただく必要性について話をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの顔なじみや家人と関係が継続できるようにコロナ禍においても緊急事態宣言などが解除さえたら面会を許可している。複数名で体操をしたりレクリエーションを行っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように食事は皆で集まり食事をするようにしている。利用者の関係性などで食事の席を帰ることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前には利用していた家族の方が施設に顔を店に来てくれたり、違う親戚の方の介護について意見を聞かれたこともある。現在は面会もオーケーしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意見が言えない人には表情や態度からくみとり、その人ごとに以降の把握に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前の生活歴や既往歴の情報を病院や前のケアマネージャーなどに確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝と夕方に夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者に申し送りをしており日常の変化について職員間で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画者だけではなくフロアの職員ごとに担当する利用者を割り振り利用者に対するケアプランをチームで考えている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各スタッフごとに担当する利用者を決めているためフロアの会議では個別の利用者の注意点や変更点をフロア職員で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの意見については検討し可能な限り対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において外出レクリエーションが出来ない状態が続いていたが現在は再開しており地域資源を利用したりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を希望する方はそのまま継続することも可能で往診を希望される方は往診を利用することも可能		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師もフロア会議に参加したり身体介助を手伝ってくれることもあり、看護職、介護職とのへだたりがないようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はケースワーカーに連絡をこまめにし、長期入院にならないように声掛けを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化してきたり、入院したり、急変した場合には家族だけではなく施設側や往診医を交えてケアの方向性について話したりする機会意を設けるようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア会議などで利用者の急変時や救急車の呼び方について話し合ったりしている 職員の休憩室にも手順書を張り出している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練や通報訓練、消火訓練などを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の羞恥心にも配慮するようにフロア会議などで話あっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外に行きたいといった要望はすぐには叶えることができないが散歩に行ったり家族に連絡したりかなえることが出来る場合には家族にも手伝っていただいたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大体のスケジュールは決まっているが利用者ごとのペースで過ごしてもらうことは可能。食事なども他の人と違った時間に食べる方もいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える時に洋服を選べる方は選んでいたいたりしている。趣味でネイルアートをされたりする方や裁縫をする方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けも気にしているが、紅茶やコーヒーを選んでいただいたりしている。外出レクリエーションやテイクアウトレクリエーションなどでは、その方ごとに好きなものを選んでいただける機会を設けている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事摂取量などを記入し水分などが著しく水分や栄養面が足りなくならないよう気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアをおこなう できる人は自分でおこない、入れ歯に関しては夜間はおあずかりする 一週間に一度は入れ歯殺菌剤で消毒を行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記載することで排尿の間隔があきすぎてないかや便の状態等を観察している。なるべく排泄力のある人はトイレ誘導などをする。過去にもカテーテルから自尿に戻った人もいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄板に記載することによって各利用者の情報を共有して必要な方は主治医と連携をとり緩下剤を使用することもある。また水分摂取不足の方などはゼリーなど摂取しやすい形をとり便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人で入浴できる方は一人で入浴することもあるが危険性もあるため職員が声掛けと確認を行う。ある程度入浴のできる時間は決めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドの位置変更や防水シーツ、夜間用の尿取りパットなどを使用して快適に眠れるように援助している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては利用者が手の届くところには保管せず一週間ごとにフロア内で補完している残りの薬には薬品庫で保管している個別に薬やサプリメントを自分で補完している人もいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる人には台拭きやお皿拭きをしていたりしている。以前はビールを飲まれていた方もいる。お部屋に入るならば仏壇をもってきたりする方もいる。昔の歌謡曲を流したり工夫している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な外出の要望には応えることが出来ない場合が多いが、希望する方にはご家族様に連絡して外出や外泊などの機会を設けてもらう人もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前はお小遣いをもってきていただいていたが現在は廃止している 外出時に欲しいものや外食時の金額はこちらで立て替えている 毎週来るお好み焼きや焼きそばの訪問販売を買う人もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年始や季節の変わり目などに友人や家人から手紙が届くことが時折ある 家族に連絡したがる人は家族に電話している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快にならないように環境整備に配慮している 各季節ごとのカレンダーを作ったりして季節感を出している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の利用者との共有空間で気疲れをしてしまった方は共用部のソファでほかの方と距離をおくことができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に入るものであれば持ってきていただくことは可能で家族の遺影を持って来ている人や以前は仏壇や宗教の祭壇的な者を持って来ている人もいた		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内ではある程度自由に本人のペースで過ごしていただく 毎日の申し送りで利用者の変化についても話し合っている		